

経営体の概要

- ・所在地：新潟県上越市柿崎区
- ・経営体名：(株)ふるさと未来
- ・栽培作物：水稲50.6ha、えだまめ8.4ha、ブロッコリー4.6ha
- ・従業員数：6名

導入技術

- 未来ファームMINORI(上越ICT事業協同組合)
- ・ほ場単位で農作業の計画や実績、投入資材、収穫などを管理するシステム。
- ・ほ場に設置したICタグにスマートフォンをかざすと、作業内容等が確認でき、作業後に再びかざすと、作業終了が自動的に記録される。



写真：ほ場データに基づくミーティングの様子((株)ふるさと未来)

導入経緯

- 規模拡大や若手従業員の雇用に伴い、作業を行うほ場の間違い防止や、作業指示の徹底を図る必要が生じてきた。
- そこで、平成29年に上越ICT事業協同組合と本システムを共同開発の上、導入した。

取組の特徴・効果

- ほ場に設置したICタグをスマートフォンで読み取ることで、ほ場名、作業内容、作業担当が表示され、作業するほ場の間違いを防止できるようになった。
- ほ場単位毎に作業の進捗状況が表示でき、従業員へのスムーズな作業指示が可能となった。
- ほ場単位に労務や農薬・肥料などの資材コストの把握と生産量・売上が自動集計されるため、収支実績の確認が容易となった。
- 農薬・肥料の使用時期や量などの情報を記録・管理することで、栽培から出荷までのトレーサビリティにも対応可能。当該システムによるほ場管理記録を活用し、平成31年3月にGLOBALGAPを取得。
- 年間を通しての作業が“見える化”でき、若手従業員の育成に効果が期待できる。